トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学でのシンポジウムを終えて

濱田　初幸*

Ⅰ　はじめに

フランス南西に位置するオート・ガロンヌ県の県庁所在地のトゥールーズ市（以下「トゥールーズ」と略す）は，ミディ・ピレネー地域圏の中核都市である。航空機メーカーのエアバス本社があり，ヨーロッパ航空産業の中心地として知られ，約43万人余りの人口を有している。トゥールーズには３校の大学があり，約11万人の学生が集う学園都市でもある。（写真１，キャンパス）

今回の招聘は，トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学（以下「ジャン・ジョレス大学」と略す）文学部外国語学科日本語文化センターに所属する，准教授カドー・イヴ※からの依頼によるものであった。ジャン・ジョレス大学では，准教授以上の外国人教員を短期間招待して，講義及びシンポジウムを開催するグローバル教育プロジェクトがプログラム化されており，その講師として招聘したいとの連絡を受けた。本学関係者に相談し了承を得たことから，2014年度３月の後期授業終了後，春季休業期間中に渡仏することとなった。

※カドー・イヴ：1971年フランス・ニース生まれ，2006年フランス国立東洋言語・文明研究所（INALCO）より博士号取得，論文テーマ：Kanō Jigorō et l'élaboration du judo – Le choix de la faiblesse et ses conséquences,
著書：KANŌ Jigorō DU JŪDŌ et de sa valeur éducative comme pédagogique（2014）, PROMENADES EN JUDO（2015）等

Ⅱ　派遣期間　平成27年３月16日～４月４日

Ⅲ　ジャン・ジョレス大学（Université Toulouse - Jean Jaurès）

1229年に創設されたジャン・ジョレス大学は，

写真　１

写真　２

５学部で構成され芸術，文学，言語学，人文科学，社会科学，テクノロジー，健康に関する教育研究に優れている名門国立総合大学である。元々の大学名はトゥールーズ第二大学ル・ミラーユ校（L'Université de Toulouse II - Le Mirail）であったが，2014年３月の大学統合移転に伴って，フランスに強い影響を及ぼした社会主義政治家であり，同大学で教授として教鞭経歴を有するジャン・ジョレス（1859－1914）の冠名を付した大学名に変更したばかりである。150の国から集う学生数は約25,767人，留学生約4,000人が在籍している。大学に勤務する教職員は1,173人，図書館だけでも18

* 鹿屋体育大学　スポーツ・武道実践科学系

施設を有する大規模校である（写真２，ジャン・ジョレス大学図書館）。

Ⅳ　講義

主に日本語を専攻する２学年34名の学生を対象に「日本の文化」について，以下の内容に関する講義を行った。

１．講義概要：1)鹿屋体育大学紹介　2)武道とは　3)柔道の誕生と国際化　4)日本の四季　5)結納　6)五節句　7)日本の警察と柔道

２．カドーゼミに所属する修士学生２名を対象に上記講義内容をより深めた授業

３．日本語専攻受講生11名を対象（４年生），日本漢字授業での質疑応答・助言

講義は１コマ180分で設定され，プロジェクターを用いて行った。講義中でも疑問に思った箇所があれば矢継ぎ早に質問を浴び，通訳兼司会進行のカドーがまとめないと，次に進めないほど積極的に質問された。食い入る様な眼差しや真摯な受講態度からも日本に対するリスペクト，関心の高さが窺われた。講義内容はカドーを通して事前にリクエストされた，武道以外の日本の文化についても講義した。

女子学生が受講生の大半を占めていたからか，日本の「結納儀式」への興味関心度が高かった。スライドで見せた「和服」の美しさに感嘆の声が漏れていた。

「日本警察」については，フランスの実情と比べながら「日本の交番の警察官は本当に信頼できるのか」など，安全，治安に関する関心が高かった。様々な外観様式で建てられている「交番」の建築物件にも興味があるようで，日本漫画をイメージした外観で建てられた「交番」を紹介すると，「カワイイ」などの発話も聞こえてきた。また，「警察官昇任試験方法」などに関する質問も出された。

春の選抜高校野球選手権が甲子園で開催中であったことから，日本の野球に関する講話を行ったが，このスポーツに関する知識がほとんどなく，「１チームの人数は」と質問すると「30人」，「40人」などの答えで，正確な人数を知っている者は皆無であった。ボールを打った後「どうして左（三塁守側）には走らないの」などと質問され，野球を見たのは「ニュースで少し」など，我が国の野球人気の高さからすると驚くばかりであった。さらに日本の大学の「卒業式」や「入学式」の式典紹介にも強く興味を示し，フランスの大学ではこのような行事はなく，説明後の反応から，大半が「フランスにもあった方がいい」と答えていた。日本の食文化への関心も高く「すし」や「ラーメン」は人気があり，「アニメ」に関する知識は筆者をはるかに上回る情報を持っていた（写真３，講義）。

写真　３

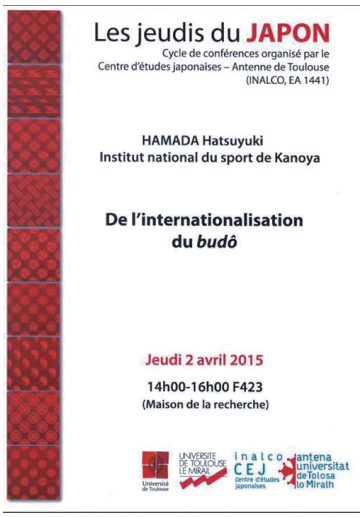

写真　４

写真　5

写真　6

Ⅳ　シンポジウム

４月２日に学生や教職員，市民に広く呼び掛けてシンポジウムを行った。キャンパス内や市内の柔道クラブにはシンポジウムポスターが掲示され，主催者の意気込みを感じた（写真４，シンポジウムポスター）。テーマは「De l'internationalisation du budô」で，武道発生過程を視点とした歴史概観（神話の時代から現代まで），国際化の実態について講演を行った。受講者は日本語専攻学生が20名，教職員６名，一般市民８名が参加した。通訳を担当してくれたカドーと詳細な打ち合わせを事前に行っていたことから，当初の計画通りに終了することができた（写真５，６，シンポジウム）。

Ⅵ　結語

フランスの多くの柔道家が日本の伝統文化に高い関心を持っていることは以前から認識していたが，武道経験の無い若い世代層が，これほどまで

写真　7

に興味を示していることには驚きを禁じ得なかった。今後の研究テーマとして日本文化を調査するために，留学を考えている学生も多く存在していたことはさらに驚愕させられた。180分間の授業は長く感じたが，学生の眼差しは生き生きとし集中する授業態度は見事であった。

本学学生を含め，内向き学生が増え海外留学する日本人学生が減少していることに懸念を抱いているが，受講生たちの強い意志，積極性を本学学生にも伝えなければならないのではと考えさせられた。

休日や授業がない時間帯にはクラブからの招聘を受け，この地方を巡回しながら各地で柔道指導を行った。DOJO TONIC, Maison du JUDO, DOJO US Colomiers（写真７，クラブでの指導），Dojo de Villefranche de Lauragais, UNIVERSITEÉ TOULOUSE Ⅲ Paul Sabatier 等のクラブでの指導を行ったが，日本人柔道家に対する強いリスペクト感は，光栄の至りであり感慨深いものがあった。

隣県のボルドーにも招待され，ブドウ畑の中に建てられている道場，Judo Jujitsu Canéjan にて指導を行った。この地は以前から訪ねてみたいと思っていた場所で，喜んで参じた。

筆者が考える「フランス柔道発展の三傑」の一人である故「道上伯（1912－2002年）」が普及活動の拠点として，終の棲家とした地域であるからだ。三傑とはフランス柔道発展の基礎を構築した，「川石酒造之助（1899－1969年）」「粟津正蔵（1923年生まれ－）」と「道上伯」である[1)]。

写真　8

写真　9

愛媛県に生まれた道上は1953年，40歳でボルドーに移住し，東京五輪無差別級金メダリスト・アントン・ヘーシンクを排出した人物として知られている[2)]。ボルドー中心市街地にある５階建ての重厚な石造建築物の１階に，ミチガミ道場（ECOLE DE JUDO MICHIGAMI）が設立されている。道場横のオフィスには，道上が使っていた机やいすが生前のまま保存され，長年愛用したと思われる柔道衣と９段以上が締めることが許される深紅帯とともに壁際に飾られ，道上の姿をそのままに留めている様であり，遺した業績を誇示している様でもあった（写真８，道上の柔道衣）（写真９，ミチガミ道場）。

海を渡り，国境を越えて世界を舞台に活躍した先人たちの恩恵を受け，柔道が国際的に受容され，発展した証左をつぶさに自らの目で検証することができ，さらに日仏の友好の絆を強くする有意義な研修であった。

グローバル化が急速に進展する時代において，本学からも海外に雄飛し，スポーツ・武道を通じて国際社会で活躍する人材を輩出しなければならないと再認識させられた。

参考文献

1)濱田初幸，中村勇，上水研一朗，水落健太，溝口紀子，河鰭一彦：柔道家 川石酒造之助に関する研究― フランスにおける柔道の伝播についての一考察―，武道学研究，40（別冊），45，2007.

2)眞上博，『ヘーシンクを育てた男』，文藝春秋，東京，170-173，2002.